

あなたと、いっせいに。

特 集 やまぎし いっせい 山岸一生

立憲民主党衆議院東京9区(練馬)総支部長・38歳

山岸 一生 新聞

立憲民主党
立憲民主 立っけん
RIKKEN
MINSHU 号外
東京版 2020.4.1

〈山岸一生事務所〉
〒177-0041
東京都練馬区石神井町
7-1-14 石神井スカイビル
Tel. 03-6676-7318
Fax.03-6632-4145
issei@yamagishi-issei.jp



プロフィール
やまぎし・いっせい
立憲民主党の衆議院
東京9区(練馬)の公認候
補予定者。38歳です。

2004年、朝日新聞社
入社。高知、京都での
勤務を経て東京で政
治報道に携わる。沖縄
でも2年間勤務し、辺
野古問題や「オール沖
縄」取材しました。
2019年5月、15年
間の記者生活にピリオ
ドを打ち朝日を退社し、
立憲に参加。7月の参
院選に東京選挙区から
立候補しましたが、
次点で惜敗しました。
参院選でいただいた
49万6347人もの声を
胸に、練馬から再起を
期します。

1981年8月28日生
まれ。趣味は登山、サイ
クリング、サウナなど。
東京都三鷹市出身。筑
波大学附属駒場中・高
等学校、東京大学法学
部卒。家族は妻と母。



届けるのは、安心

子育て、仕事、消費増税。
住まい、年金、健康不安。
いま多くの暮らしの現場
に、不安の声が満ちています。
私は新聞記者として15年
間、働いてきました。暮らし
の、仕事の、多くの不安の
声を聞いてきました。この不安
に向き合うことこそ、政治の
仕事のはずです。

しかし、違いました。政治
家は、自らは安全地帯にいな
がら、私たちの「自己責任」
を強調するばかり。政治が国
民の対立をまねき、世界中で
「トランプ政治」が広がって
います。
もう、終わりにしませんか。
不安と分断をまねく政治は、
私は今こそ、目指します。

政治の役割は、私たちの
「不安」に丁寧に向き合
うこと。

とことん、あなたの不安に向
き合う政治。私といっしょに、
描きませんか。私たちの新し
い「安心」を。
分断ではなく、つながりで。
排除ではなく、包みこむこと
で。
声を上げましょう、いっせ
いに。

いつも、 街にいる

山岸一生は、まちかど
の政策の訴えを中心に活動
しています。平日の朝は駅
頭で、午後から夕方につ
てはあなたのまちかどへお
邪魔しています。見かけた
ら、どうぞ声をおかけくだ
さい。あなたの声を全身で
受け止め、全力で動いてい
きます。あなたの声が日本
を変える原動力になります。



山岸一生 LINE
公式 定期的に発信中!

Your voice

あなたの声を
お聞かせ
ください。



〈政策〉

山岸一生が、
あなたと
守りたいもの



- 公立小中学校の給食を無償化します。
- 待機児童の解消と保育の質の向上を目指します。
- 児童虐待や、いじめを受け子どもたちの保護と保護者への支援を強化し、児童相談所など関係機関の体制を充実させます。



- 中小零細企業への支援を拡充しつつ、5年以内に最低賃金1300円を実現し、さらに引き上げを目指します。
- 「就職氷河期」世代が安心して人生設計を描けるよう、正規雇用への転換を図ります。
- 安心を支える介護職、保育職の大幅な賃金引き上げを実現します。
- 個人の可能性が芽吹く社会へ。選択的夫婦別姓を実現します。
- セクハラ、パワハラなどあらゆる人権侵害のない職場を作ります。



- 安心して医療や介護が受けられるよう、年金の最低保障機能を強化します。
- 公営住宅を大幅に拡充し、高齢者や若い世代の住まいを支えます。
- 「空き家」対策を進め、まち全体の資産価値を向上させます。
- 断熱リフォームの義務化で住宅の寿命を延ばし、中古市場を活性化させます。
- 練馬の良好な住環境を守るためにも、都市農業を振興します。
- 安心して住み続けるために。原発は速やかに廃止。



立憲民主党代表
枝野幸男



**山岸一生さんと
まっとうな政治を
実現します。**

新聞記者 / **山岸一生のこだわり**

2013〜15年、朝日新聞の記者として沖縄で取材しました。那覇市長だった翁長雄志さんが、「辺野古移設」に反対し、幅広く党派を超えて「オール沖縄」のうねりを立ち上げるのを、間近で取材しました。翁長さんは14年に県知事に就任。「まだまだ、政治には可能性がある」。翁長さんと「オール沖縄」を取材して、確信を持ちました。新聞記者として、志を新たに思いました。

しかし、15年に東京に戻った私が直面したのが、「安倍一強」の荒涼たる政治でした。このままではいけない。私は、翁長さんをお招きして、東京でシンポジウムの開催に奔走しました。沖縄という視点を通じて、「排除と分断」が進む日本の政治の危うさを告発する思いでした。

新聞記者として、精いっぱいやった。しかし、日本の政治はその後も崩れていく一方でした。翁長さんは18年に、志半ばでなくなりました。次は自分が、行動を起こす番だ。沖縄での経験は、私が政治家を志すこととなった原点です。

「オール沖縄」に見た政治の原点